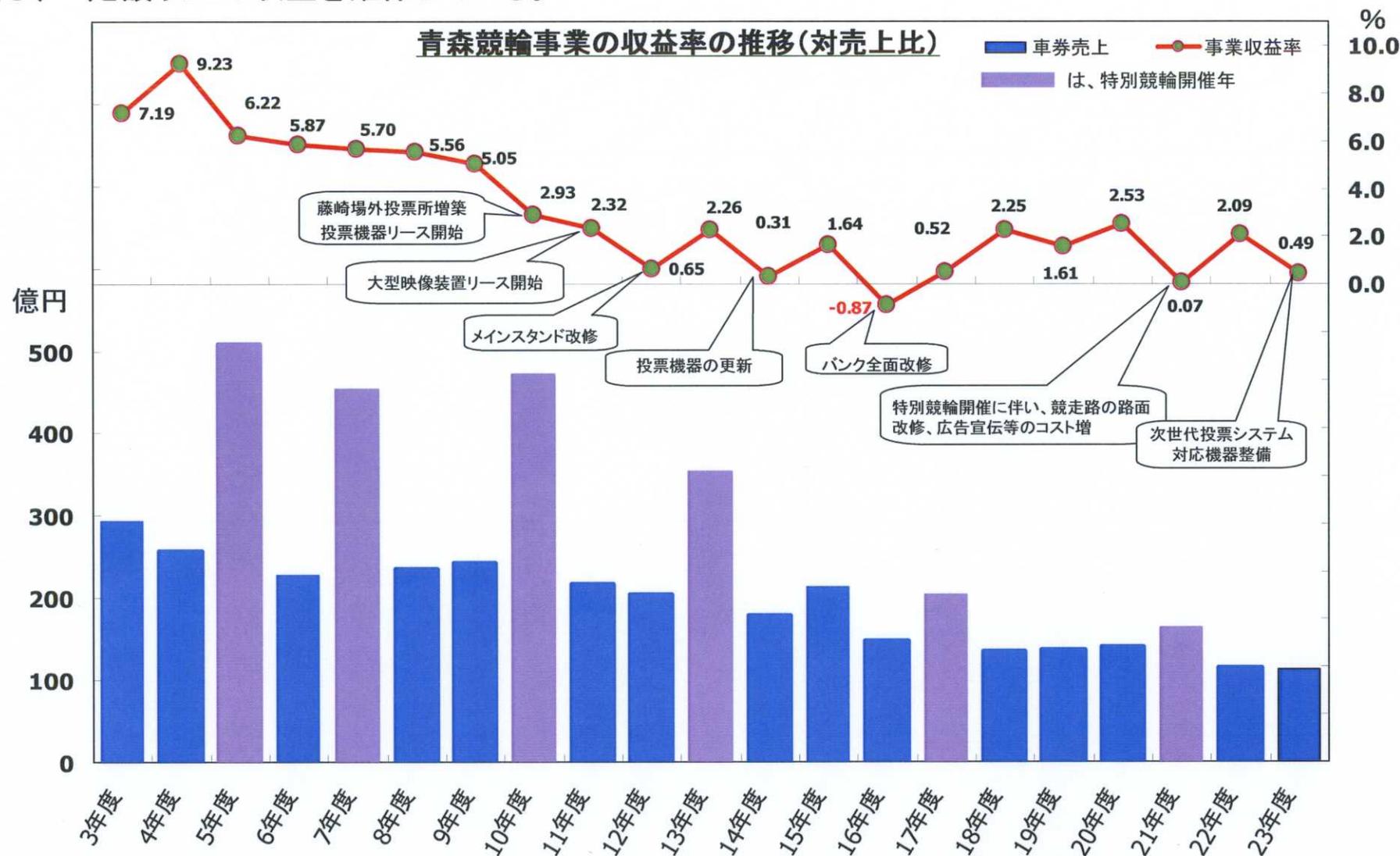


22. 青森競輪事業の収益状況

- ◆青森競輪事業の収益率は、平成16年度までは低下の一途を辿り、平成16年度の単年度収益は、バンクの全面改修がありマイナスとなった。平成17年度以降はプラスとなっている。
- ◆平成19年度から25年度までの7年間については、業務運営全般を収益保証型包括委託という形で委託をし、一定額以上の収益を確保している。



「開催収支」…車券売上の75%が払戻金に充てられ、残り25%のうちから交・納付金及び選手賞金等の開催経費を差し引いたもの。
 「事業収益」…「開催収支」+「開催外収支(場外開催に係る車券の受託発売等による収入や施設整備費等)」

23. 一般会計への繰入金の状況

◆昭和25年開設以来、一般会計への繰入金の総額は、約676億円。

(単位:千円)

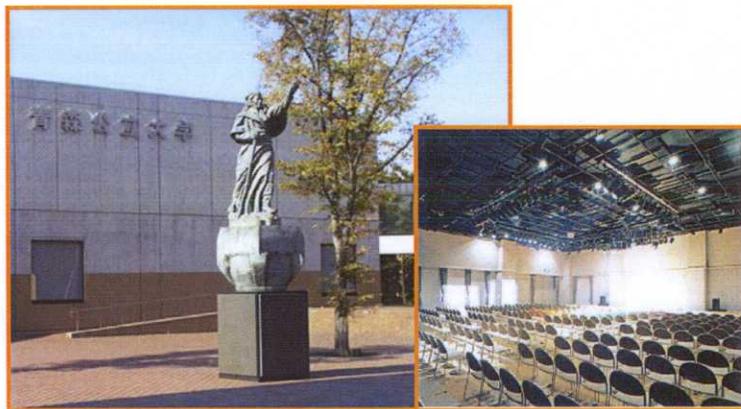
	車券売上高 【本場開催】	事業収益		一般会計への 繰入金	基金残高	繰越金 〔次年度開催 運転資金へ〕
		金額	収益率			
昭和25年度から平成2年度				47,907,300		H2年度 2,096,860
平成3年度	29,272,122	2,105,981	7.19%	2,950,000		1,252,841
平成4年度	25,648,491	2,367,488	9.23%	2,980,000		640,329
平成5年度 ※	50,820,329	3,158,644	6.22%	2,980,000		818,973
平成6年度	22,812,128	1,338,144	5.87%	1,500,000		657,117
平成7年度 ※	45,290,871	2,580,324	5.70%	2,500,000		737,441
平成8年度	23,418,054	1,301,488	5.56%	1,500,000		538,929
平成9年度	24,194,808	1,222,359	5.05%	1,200,000		561,288
平成10年度 ※	47,102,209	1,378,292	2.93%	1,800,000		139,580
平成11年度	21,693,535	504,183	2.32%	550,000		93,763
平成12年度	20,367,399	132,926	0.65%	160,000		66,689
平成13年度 ※	35,267,245	797,041	2.26%	800,000		63,730
平成14年度	17,816,052	55,554	0.31%	100,000		19,284
平成15年度	21,278,245	348,287	1.64%	100,000		267,571
平成16年度	14,719,018	-128,644	-0.87%	70,000		68,927
平成17年度 ※	20,444,529	106,493	0.52%	80,000		26,493
平成18年度	13,539,461	305,164	2.25%	0		331,657
平成19年度	13,635,651	219,319	1.61%	18,310		532,666
平成20年度	13,985,363	354,018	2.53%	100,000	200,000	586,684
平成21年度 ※	16,391,847	11,527	0.07%	100,000	301,028	397,706
平成22年度	11,410,445	238,837	2.09%	100,000	401,430	436,141
平成23年度	11,227,454	54,687	0.49%	100,000	402,140	390,118
合計				67,595,610		

※は、特別競輪開催年

24. 青森市における競輪事業収益の主な活用実績例

◆競輪の収益は、地域社会のさまざまなところで、役立っています。

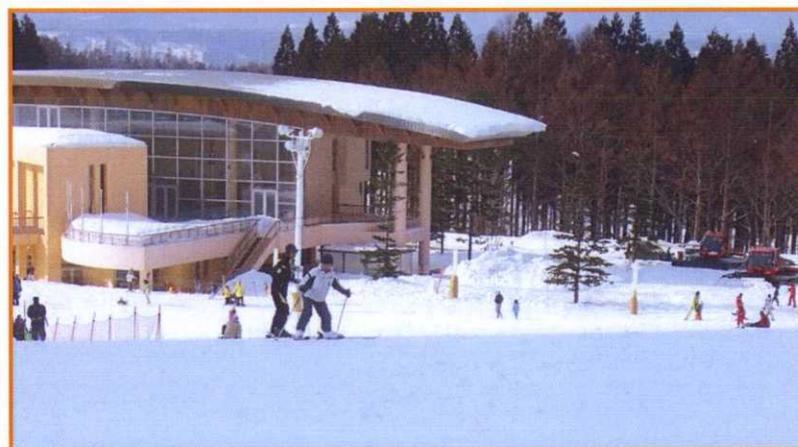
人材育成に(青森公立大学交流会館)



健康づくりに(元気プラザ)



娯楽レジャーに(モヤヒルズ)



その他、「道路の整備」や「市民センター建設」などにも活用。

25. 青森競輪における雇用者数

委託(運営)会社による 地元雇用者数 (平成24年4月1日現在)	306人
--	------

青森競輪の従業員数は、

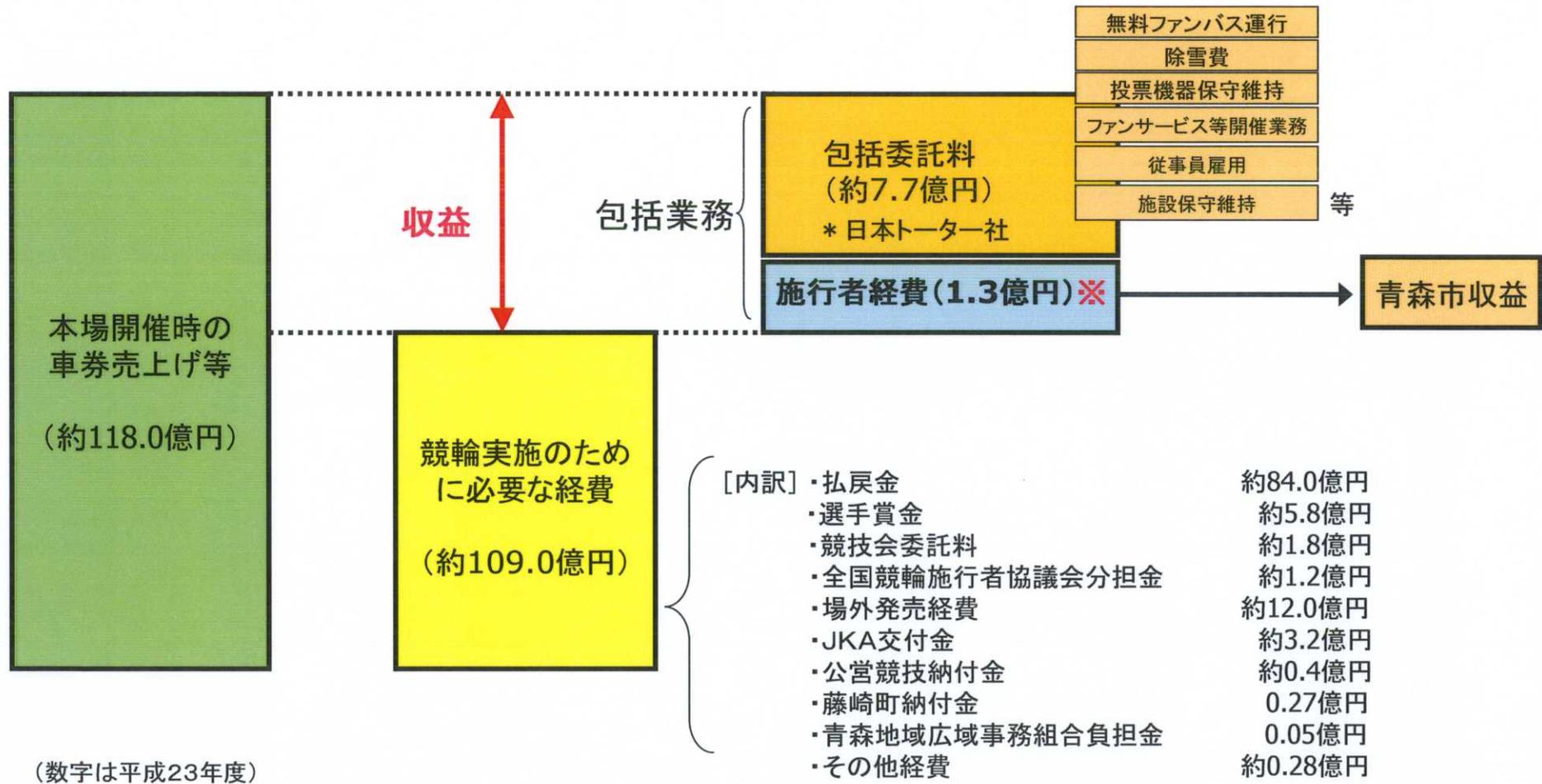
- 市内の「百貨店、総合スーパー」、1店舗あたりの従業者数(328人)の約93%。
- 市内の製造業の1事業所あたりの従業者数(31人)の、約10倍。

○参考データ

	事業所数(店舗)	従業者数	1事業所あたり	統計名
市内の百貨店、総合スーパー	4店舗	1,313人	328人	H19商業統計
市内の製造業	205事業所	6,387人	31人	H22工業統計

※「百貨店、総合スーパー」とは、衣・食・住にわたる各種商品を小売し、そのいずれも小売販売額の10%以上70%未満の範囲内にある事業所で、従業者が50人以上の事業所をいう。「製造業」とは、従業員4人以上の事業所をいう。

26. 青森市競輪事業に係る包括委託契約のイメージ(平成19年度～25年度)



※車券売上額が180億円(本場開催+場外開催)を超えると一定額増額
【参考】平成23年度の売上額は約178億円(本場開催+場外開催)

27. 青森競輪事業のあり方に関する報告書(平成23年11月)の概要

青森競輪の課題

【総論】

青森競輪を含め全国的に、車券の売り上げは引き続き減少が続いている。次期包括委託契約の条件によっては、平成26年度以降に一般会計に繰入れが行えないことも考えられ、財政目的を果たせない公営競技事業となる可能性があり、競輪事業の存続、廃止を検討する必要がある。しかしながら、財政目的を果たせない公営競技事業であっても雇用や地域経済への影響及びまちづくりの観点も併せて検討する必要がある。

【各論】

- 本場は市街地から離れており、また公共交通機関の利用ができないことにより生じるコストの解消策の検討。(無料ファンバスを運行し、冬季は施設内の除雪を行っていることから高コストとなっている。)
- 安方前売SCが利用者数の多い施設にも関わらず利用者がくつろいだり、レース映像を見ながら車券購入したり、当日の払戻しができないため、十分に満足できるような施設となっていない。
- 安方前売SCが中心市街地に立地しているのにも関わらずまちづくりに活かされていない。
- 本場、安方前売SC、藤崎場外車券売場の施設を競輪イベントの開催ばかりでなく、体育・社会福祉などの公益の増進に利用するといった活性化策が必要である。
- 一部関係者を除き、競輪の運営状況が市民に十分に知られていない。
- 平成19年度から実施した民間包括委託の導入により、業務実施面では一定のコスト削減効果があったことを踏まえ、平成26年度からどのように対応するか。

今後のあり方(結論)

次の理由から競輪事業については“当面存続”とする。

- 機械的に行った収支見通しにおいては最も悲観的な試算でも平成45年度に特別会計の資金が枯渇し、一般会計の負担が発生するという試算であることから現時点では廃止と結論付けるのは時期尚早である。
- 青森市において競輪事業を実施することにより青森市内だけでなく藤崎町を中心とする津軽地方に広く雇用や地域経済効果をもたらしていることを考慮すれば、これらの効果を税負担なしに実現をしていることは青森競輪の存在意義の一つである。

今後、存続して行く上での取り組むべき事項

- 競輪事業の収益やその用途などの広報周知
- 払戻金や交・納付金の法定経費など市独自の裁量が効かない経費以外の経費の見直し
- 引き続き、民間のノウハウを活用し、より良い「効率的な運営」と「更なる活性化（市民に親しまれる青森競輪）」の取り組み
- 安方前売SCの場外車券売場化の検討

ただし、次の点について十分に留意すること。

- 今後、具体的な検討の中で投資規模等が明らかになった段階で再試算を行い、その上で長期的なメリットがあると判断された場合のみ場外車券売場化を実施すること。
- 場外車券売場の場所は、メリットの一つに上げられているファンバスの廃止を考えれば、公共交通が便利な場所に検討を行うこと。
- 中心市街地地区で場外車券売場化を行う場合は中心市街地活性化にどのように資するかも検討を行うこと。

- 青森競輪施設の公益の増進(体育・社会福祉など)に資する有効活用

- 新たな外部委員による検討会の設置

今後も競輪事業の先行きに不透明な部分があるが、競輪事業の実施により地域経済、雇用などの寄与もある。

したがって、青森競輪を取り巻く環境が大きく変化した際には、新たに外部委員による検討会を設置することが望ましい。

28. 今後の青森競輪のあり方について(平成24年2月28日 庁議決定)

「青森競輪事業のあり方に関する報告書」を踏まえ、今後の青森競輪の運営方針を下記のとおりとする。

運営方針

1. 青森競輪の存廃について

平成25年度末をもって、現在の包括委託契約の期間が満了した後の平成26年度以降の青森競輪の存廃については、一般会計から競輪事業特別会計への繰出金(いわゆる税負担による運営を指す)が生じない限り、仮に、競輪事業特別会計から一般会計への繰出金や関係地方団体への交付金の支出が行えなくなったとしても、青森競輪のもつ雇用や経済効果等の役割に鑑み競輪事業を継続することを基本とする。

2. (仮称)青森競輪経営企画委員会の新設について

青森競輪の経営の重要事項について継続的に外部有識者等の意見を取り入れるため(仮称)青森競輪経営企画委員会(以下「経営企画委員会」という。)を設置することとする。
経営企画委員会の役割は、青森競輪の経営上の重要事項について諮問に応じ市長に意見を述べることとする。

3. 新場外車券売場の設置検討について

青森競輪の長期的に見た経営コスト削減やファンサービスの向上等の観点から、安方前売サービスセンターの廃止を前提とする新場外車券売場設置の具体的な検討を行うこととする。その際は税負担がない計画になることを前提とし、その前提を満たさない場合は新場外車券売場の設置は行わないこととする。

また、新場外車券売場の立地についてはコスト削減メリットを十分に発揮するために市内の公共交通の便が良い地域を選定することを基本とし、同時に青森市の街づくりの視点も考慮しつつ検討を進めることとする。

なお、新場外車券売場の設置に当たっては、経営上の重要事項として経営企画委員会の意見を聞きながら進めるとともに、市民、議会とも十分に意見交換を行うこととする。

4. その他

青森競輪の各施設について、より市民に身近な施設となるよう更に努めることとする。

29. 青森競輪経営企画委員会の概要

【目的】

青森競輪の運営方針に基づき、経営上の重要事項について継続的に外部有識者等の意見を取り入れるため、青森競輪経営企画委員会を設置する。

① 所掌事務

- ・ 市長の諮問(競輪場の存廃をはじめ競輪事業を経営する視点で重要と判断する内容)に応じ、青森競輪の経営に関し基本方針等について答申する。
- ・ その他青森競輪の経営に関する重要事項及びその活性化について市長に意見を述べる。

② 委員会構成メンバーについて

学識経験者	経済団体・公共団体	その他市長が必要と認める者
1名	2名	3名

③ 委員の任期

2年間(最初の委員の任期は、委嘱の日から平成26年3月31日まで)

30. 青森競輪場におけるミッドナイト競輪の実施について

【目的】

施設の有効利用の一環として、“本場施設ならではの立地特性(住宅街から離れている)の利点”を最大限に活かし、全国で2カ所の競輪場でしか開催されていない「ミッドナイト競輪」を開催しミッドナイトファンの確立を図ることで、新規顧客を獲得し競輪事業の持続可能性を高め、「健全な娯楽としての青森競輪」の認知度を一層高めることを目的に実施する。なお、ドーム型以外の競輪場では日本初。

《H24実施概要(予定)》

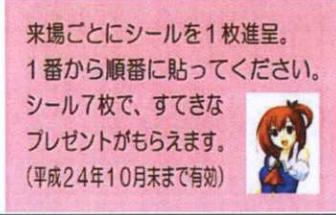
- ・開催時期 **【試行】H24年10月25日(木)～26日(金)**
※試行実施を検証し、H25年度から本格実施を検討。(年間10日程度)
- ・発走時刻 第1レース(21:17前後)～第7レース(23:17前後)
- ・車券発売方法 インターネット投票等による車券発売。
- ・入場者の有無 無観客レースで一般来場者の入場者は無し。

ミッドナイト競輪とは

- ◆ 21時以降の深夜帯に行われる競輪。サラリーマン層をターゲットに会社から帰ったあと、自宅等でのんびり楽しめるレジャーを提供し、競輪の興味を広めることを目的に2011年から導入されている。
- ◆ 開催時間が深夜となるため、近隣への雑踏等を考慮して観客は入れず(無観客)、競走を実施する。車券は、全て電話・インターネット投票で発売され、レース映像はインターネットのライブ中継などで配信されている。
- ◆ 無観客での開催により、場内での車券発売・場内警備・無料バスの運行などの費用が不要となるため、日中のレースと比較し開催経費を圧縮できるメリットがある。
- ◆ 現在、ドーム型競輪場の小倉競輪場、前橋競輪場で実施されている。

31. 市民に身近な競輪場づくり

1. 青森競輪独自のファンサービス

実施内容	写真	備考
・車券購入者に選手宿舎内の競輪場温泉を開放		・施設の有効利用として、選手宿舎内の温泉を開放しているのは日本初(競輪場施設に温泉を引いているのは、他に別府温泉競輪場がある)
・キッズポイントカード	<p>来場ごとにシールを1枚進呈。 1番から順番に貼ってください。 シール7枚で、すてきなプレゼントがもらえます。 (平成24年10月末まで有効)</p> 	<p>・小学生以下のお子様が出来場した際、シールを一枚進呈。</p> <p>カードに貼って7枚貯まるとプレゼントがもらえる。</p>

2. 市民の憩いの場としての青森競輪

実施内容	写真	備考
・平成23年度の優秀制作者賞・観光コンベンション協会会長賞を受賞したねぶた「韋駄天」を移設・展示		<p>・作:竹浪比呂央(JRねぶた実行プロジェクト)</p> <p>平成24年8月中旬に展示</p>
・ハーブの丘の開放		・ハーブの色や香りを楽しんでいただくため、大型すべり台がある「子供のひろば」から万里の長城を抜け、おもしろ自転車に向かう途中のスペースに数種類のハーブを植える。
・ピクニックコートの開設		・競輪場内でバーベキューが楽しめるように、ベンチやコンロを無料で貸し出しするのは日本初

